

Language of instruction in Japanese language teaching in the world

世界の日本語教育における指導言語について

Date: 15 July 2022 (FRIDAY)

Time: 10:30am-12:00pm

Venue: online (Zoom)

Language: Japanese



Scan the QR Code or visit <https://bit.ly/39AntFM> to register

講演要旨

文部科学省は平成 29 年に中学校学習指導要領を改訂をした際、英語の授業は英語で行うことを基本とすることを新たに規定したが、文化庁の「日本語教育人材の養成・研修に在り方について」の平成 31 年の報告書では指導言語に関する言及は一切ない。日本語の授業は日本語で行うことが基本とされているからだろうか。日本国外における日本語教育での指導言語は、教員の日本語母語話者・非母語話者ステータス、学習者の日本語のレベル、日本語学習・教育の目的、教育が行われる地域の言語、及びその地域における日本語の地位などによって左右される。また、いわゆる訳読法がコミュニケーション能力の発達を阻むものとして批判される一方、言語学習におけるL1の重要性も指摘されてきている。特に翻訳・通訳がカリキュラムに導入されている場合は、L1との比較、違いに気づかせることにも結び付き、学習者の批判的態度を養う役割も担っている。今回はオーストラリアとベトナムの例を中心に、指導言語にまつわる教育事情を考察する。



講演者

橋本佳代子（博士）。シニアレクチャラー、クイーンズランド大学（オーストラリア）、言語・文化学科。主な研究分野は言語政策。主要業績：『アジアにおける日本語とソフトパワー』（編著、2017年、パラグレイブ・マクミラン）、『ネイティブ・スピーカリズムを越えて』（A. ホートン、D. リバーズと共著、2018年、ラウトリッジ）、『アジアにおける英語教員研修』（V-T. グエンと共編著、2018年、ラウトリッジ）。ジャーナル、Asian Studies Review、の言語・教育分野編集者。



SCHOOL OF
MODERN LANGUAGES AND CULTURES
FACULTY OF ARTS, THE UNIVERSITY OF HONG KONG